

お茶の水女子大学ジェンダー研究センター
 第 10 回夜間セミナー
 「アジア・太平洋地域におけるジェンダーとグローバル化」
 ヴェラ・マッキー教授

(ジェンダー研究センター客員教授/カーティン工科大学)

11/7, 14, 28, 12/5, 11
 (午後 6 時半より, 理学部 3 号館会議室)

お茶の水女子大学ジェンダー研究センターでは、本年 10 月より 2002 年 3 月まで、オーストラリア、カーティン工科大学教授 (国際文化学部学部長、日本研究) のヴェラ・マッキー先生を当センター客員教授としてお迎えすることになりました。先生は、近代日本におけるフェミニズムの歴史、ジェンダーと政治がご専門です。近年では、現代日本におけるシティズンシップを、政治経済の視点にとどまらず、ジェンダー、階級、エスニシティ、セクシュアリティの複層的視点から分析した論文等を発表なさっています。

今回のセミナーでは、アジア・太平洋地域におけるジェンダーとグローバル化を、特にオーストラリア、日本、東南アジアに焦点を当てて考察していきます。

	日時	タイトル	コメンテーター
I	11/7(水) 18:30-20:30	ジェンダーとグローバル化 を考える	伊豫谷登士翁 (一橋大学教授)
II	11/14(水) 18:30-20:30	グローバル化と身体	鄭暎惠 (大妻女子大学助教授)
III	11/28(水) 18:30-20:30	グローバル化と表象	千野香織 (学習院大学教授)
IV	12/5(水) 18:30-20:30	グローバル化と セクシュアル・アイデンティティ	河口和也 (実践女子大学非常勤講師)
V	12/11(火) 18:30-20:30	グローバル化と トランスナショナル・フェミニズム	伊藤るり (ジェンダー研究センター教授)

各回司会: 館かおる(ジェンダー研究センター教授)

- 開催日時: 11/7、11/14、11/28、12/5、12/11。午後 6 時半～8 時半。
- 開催場所: お茶の水女子大学理学部3号館会議室。
- 交通機関: 丸の内線茗荷谷駅、もしくは有楽町線護国寺駅から徒歩 10 分。
- 資料代: 当日配布するレジュメ・資料について、実費を申し受けます。
- 使用言語: 日本語。

住所: 〒112-8610 文京区大塚 2-1-1 Fax: 03-5978-5845

E-mail: igs@cc.ocha.ac.jp URL: <http://www.igs.ocha.ac.jp>

お茶の水女子大学ジェンダー研究センター
第 10 回夜間セミナー
「アジア・太平洋地域におけるジェンダーとグローバル化」
のお知らせ

Gender and Globalization in Asia and the Pacific
ヴェラ・マッキー教授 (Prof. Vera Mackie)

11/7, 14, 28, 12/5, 11 (全 5 回、午後 6 時半より)

お茶の水女子大学ジェンダー研究センターでは、2001 年 10 月より 2002 年 3 月まで、オーストラリア、カーティン工科大学教授 (国際文化学部学部長、日本研究) のヴェラ・マッキー先生を当センター客員教授としてお迎えすることになりました。

マッキー先生は、近代日本におけるフェミニズムの歴史、ジェンダーと政治がご専門です。史料にもとづく歴史学的分析から、近年では、現代日本におけるシティズンシップを、政治経済の視点にとどまらず、ジェンダー、階級、エスニシティ、セクシュアリティの複層する観点から分析した論文等も発表なさっています。近代から今日にまで至る日本のジェンダーと政治を、歴史学や政治経済学の見地から捉えるとともに、アジア・太平洋地域研究の視座も交えた多くの論文、編著、著作を公刊されています。

マッキー先生は、1978 年モナシュ大学にて日本語・言語学学士号を取得された後、東京外国語大学研究生を経て、1985 年モナシュ大学日本研究修士号 (MA) を取得。1994 年アデレード大学より歴史学、女性学の博士号 (Ph.D) を取得されています。この間、メルボルン大学助教授・女性学プログラム長を経て、1998 年よりカーティン工科大学にて日本研究教授をつとめていらっしゃいます。

当センターでは、マッキー先生の来日に伴い、「アジア・太平洋地域におけるジェンダーとグローバル化」のテーマのもと、下記概要の要領で 11 月から 12 月にかけて夜間セミナーを開催いたします。近年、問題関心が非常に高まっているジェンダーとグローバル化をめぐる議論に、アジア・太平洋地域の視点を交えて講義される今回の夜間セミナーは、新たな視座や論点を拓き、議論を深める機会にもなるかと思えます。大学内外に開かれたセミナーですので、どうぞふるってご参加ください。

* マッキー先生の主な著作・論文・編著作 *

- 2001a P. Jones and V. Mackie (eds), Relationships: Australia and Japan, 1870-1950s, History Monographs Series, Melbourne: Univ. of Melbourne.
- 2001b 'The Trans-sexual Citizen: Queering Sameness and Difference', Australian Feminist Studies, vol.16, no.2.
- 2000a 'Sexual Violence, Silence and Human Rights Discourse: The Emergence of the Military Prostitution Issue', in A. M. Hilsdon, V. Mackie et al. (eds) Human Rights and Gender Politics: Asia Pacific Perspectives, London: Routledge.
- 2000b 'The Dimensions of Citizenship in Modern Japan: Gender, Class, Ethnicity and Sexuality', in A. Vandenberg (ed.) Democracy and Citizenship in a Global Era, London: Macmillan.
- 1997 Creating Socialist Women in Japan: Gender, Labour and Activism, 1900-1937, Cambridge: Cambridge Univ. Press.
- 1996 'Feminist Critiques of Modern Japanese Politics', in M. Threlfall (ed.) Mapping the Women's Movement, London: Verso.
- 1992 'Japan and South East Asia: The International Division of Labour and Leisure', in D. Harrison (ed.), Tourism and the Less Developed Countries, London: Belhaven Press.
- 1988 'Division of Labour', in G. McCormack and Y. Sugimoto (eds), Modernization and Beyond - the Japanese Trajectory, Cambridge: Cambridge Univ. Press.

セミナーを始めるにあたって
ヴェラ・マッキー

このセミナーでは、アジア・太平洋地域におけるジェンダーとグローバル化を、特にオーストラリア、日本、東南アジアに焦点を当てて考察する。アジア・太平洋地域のなかで、オーストラリアと日本はそれぞれ、この地域の他の国々とどのような関係をもっているのであろうか。アジア・太平洋地域という特定の視座に立つことによって、ジェンダー化された諸現象がどのようにグローバル化と関連づけられているのか論じていく。地域における、生産物や人々、金融、記号や象徴の流通経路は何か？誰が、どこに、どのような目的で移動するのか？誰が観光旅行者で、誰が接待者なのか？誰が生産者で、誰が消費者なのか？誰が、どこで、結婚相手を見つけるのか？こうした行為者は、ジェンダーや階級、「人種」、エスニシティ、セクシュアリティの多元的な軸に、どのように位置づけられているのか？こうしたプロセスは文化表象のなかにどのように現われ、あるいは現われていないのか？

本セミナーでは、まずグローバル化の理論的定義を考察した後、身体、セクシュアル・アイデンティティ、文化表象、政治行動といったテーマに焦点を当てていく。ここでの議論は、フェミニスト理論やポスト・コロニアル論、カルチュラル・スタディーズの観点に示唆されているが、政治学や政治経済学、国際関係論といった学問領域と結びつけることを試みた知見にも依拠している。

各回司会: 館かおる(ジェンダー研究センター教授)

11/7(水) 6:30-8:30p.m. I. ジェンダーとグローバル化を考える

コメンテーター: 伊豫谷登士翁(一橋大学教授)

セミナーの標題テーマである「アジア・太平洋地域におけるジェンダーとグローバル化」のイントロダクションとする。グローバル化の定義、オーストラリアや日本、東南アジアにおけるグローバル化の特徴、ジェンダーとグローバル化を考えるうえで求められる理論的パースペクティブ、そして、政治経済学と文化表象とが一見へだたったものでありながらも、緊密に結びついていることを考察する。

11/14(水) 6:30-8:30p.m. II. グローバル化と身体

コメンテーター: 鄭咲恵(大妻女子大学助教授)

グローバル化の「身体化された経験」に焦点を当てる。それをあるいは、「グローバル化される身体/身体化されるグローバル化」と呼ぶこともできるだろうか。このことは、まず「人々の動きを内包するもの」として身体を捉えるところから、グローバル化を考察するという意味をもつ。生殖、セクシュアリティ、性の商品化や性サービス産業、観光産業を通じて提供される身体や身のまわりのケア・サービス、多国籍企業での労働における身体化された経験、移民労働者や婚姻による移動を通じて身体化された経験、観光旅行者とその接待者双方に身体化される経験。そして、ホスト社会の特権的な成員による「頭脳労働者」とは正反対にある、移民肉体労働者の経済・階級構造への組み込まれ方。身体化される経験は、単に個人的な体験にとどまらず、社会的なシステムによっても規定され、構造化されている。このような事象にグローバル化はいかなる影響を及ぼしているのだろうか。

11/28(水) 6:30-8:30p.m. III. グローバル化と表象

コメンテーター: 千野香織(学習院大学教授)

グローバル化の経験は、文化表象にどのように現われ、あるいは現われていないのか。弱者に対する強力な観察者のまなざしが、特定のローカルな支配と従属の関係性のなかでいかに構築されるかを考察する。見る者/見られる者の両者がジェンダーや階級、「人種」、エスニシティ、セクシュアリティの多元的な軸によって位置づけられていると認識する、観察者性と欲望のモデルを発展させたい。本講義の後半部では、自己表象、あるいは「下からの」まなざしを含む、グローバル化の別様の表象について考察する。

12/5(水) 6:30-8:30p.m. IV. グローバル化とセクシュアル・アイデンティティ

コメンテーター: 河口和也(実践女子大学非常勤講師)

文化形態のグローバル化をめぐる議論の文脈において、セクシュアル・アイデンティティとしてのアイデンティティ産出の問題を考察する。あらゆる社会は、男性/女性やヘテロセクシュアル/ホモセクシュアルといった二項対立図式によって作動しているのであろうか。二項対立的ではないモデルを描くことはできないのだろうか。いくつかの社会には、セックスやジェンダー、セクシュアリティの多面的な配置にもとづく別様のモデルがあると主張する論者がいる。グローバルな文脈で「ゲイ」や「レズビアン」「トランス・ジェンダー」「クイア」のアイデンティティを論じることは、「グローバル化」「ローカル化」「グローカル化」の議論をめぐる明らかな事例でもある。国境を超えた共通のゲイ・カルチャーの存在によって、ゲイ・アイデンティティがグローバルな現象であると主張する論者がいる一方、「ゲイ」が外来語として取り入れられたような地域でさえも、独自のローカルな文脈のなかで多様な含意や意味性を帯びているとみなす論者がいる。「ゲイ」や「レズビアン」「トランス・ジェンダー」「クイア」のアイデンティティは、ローカルな文脈における政治的な闘争にも結びついている。

12/11(火) 6:30-8:30p.m. V. グローバル化とトランスナショナル・フェミニズム

コメンテーター: 伊藤るり(ジェンダー研究センター教授)

近年来、女性運動はさまざまな国々の女性たちとその結びつきを深めてきた。グローバル化のプロセスによって、こうした国際的な連携は徐々に必然となりつつある。しかしながら、こうした結びつきを論じる言葉は、世界システムにおける国家の相互依存性という観点への変化を反映し、「国際」から「グローバル」、「トランス・ナショナル」へと移り変わっている。アジア・太平洋地域における近年のフェミニストの行動、グローバル化や超国境性とフェミニズムの言葉の変化、そして言語、言説、文化実践、政治経済学、政治行動、社会変革の関係性をめぐる議論を考察する。シティズンシップという概念が国境によって囲い込まれた世界において、フェミニストの運動が国境を超えることは可能であろうか。